



ホウセンカの育て方



●基礎知識

科名：ツリフネソウ科
別名：インパチェンス、爪紅
原産：インドや中国
花期：7～9月

●栽培に必要な準備物

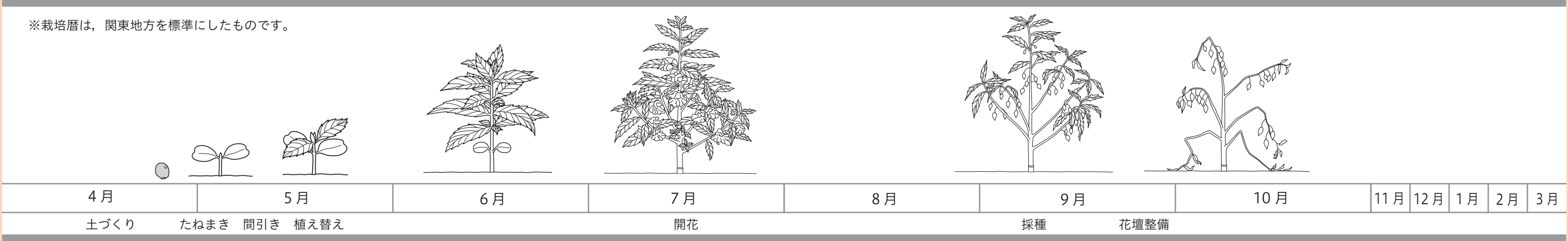
たね、ビニルポット、苦土石灰、腐葉土、肥料、移植ごて、じょうろなど

●3年の学習との関連

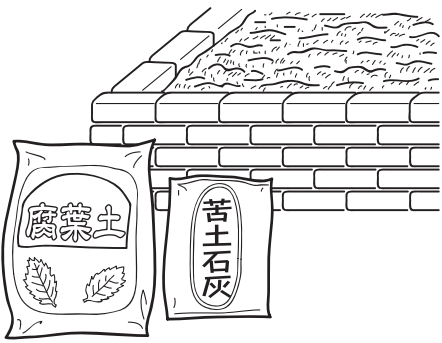
ホウセンカの世話や観察をととして、植物の育ち方や植物の体のつくり（根、茎、葉）をとらえる。
〔副教材：ヒマワリ〕

●6年の学習との関連

植物が根から取り入れた水は、茎を通して葉まで運ばれ、葉から蒸散することをとらえる。



土づくり

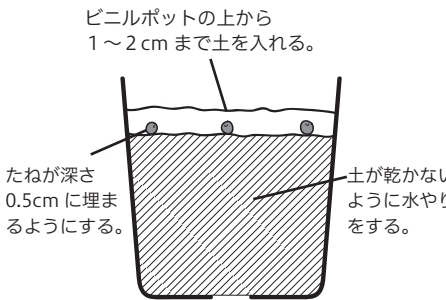


たねまきの下準備として、良質な土づくりを行う。

- ①前に植えた植物や根などの取り除き、土を耕しておく。
- ②耕した土に苦土石灰をまく。（多くの草花は、酸性の土を嫌うため。）中和するまでに時間がかかるため、たねをまく1週間前までに済ませておく。
- ③②の土に、腐葉土と化成肥料を混ぜる。

たねまき

土を入れたビニルポットに2～3粒のたねをまく。
上から薄く土をかけて、たねが流れないように水やりをする。

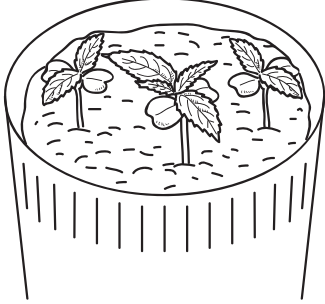


たねまきをしたビニルポットは、日当たりのよい場所に置き、土が乾かないように水の管理を行う。水が不足すると、草丈があまり伸びなかったり、花の数が少なくなったりしてしまう。

間引き

大きく成長して密集してしまうと、日当たりが悪くなってしまったり、栄養不足になってしまったりする。これを避けるために、間引きを行う。

子葉が出て、本葉が2～3枚になったら、ひょろひょろしている苗を抜き、丈夫そうなものを残す。
苗が成長してくると、根を張って、間引く際に残しておく苗の根まで傷つけてしまうことがあるので、すんなり引き抜けない場合には、地上部分だけ切り取るとよい。



植え替え

本葉が6～7枚になったら、花壇に植え替える。

- ①植え替える花壇の土には、あらかじめ水を与えておく。
- ②株の間が30cm 間隔になるように位置を決め、深さ20cm ほどの穴を掘る。
- ③根を傷つけないようにビニルポットから土ごと取り出して植え替える。
- ④たっぷりと水を与える。

植え替えは、根が乾かないようにすばやく行う。また、日中の暑い日や、直射日光の当たる時間は避けるとよい。

たねの保管

採取したたねは、翌年にまたたねまきをすれば芽を出し、花を咲かせる。次年度の3年の学習で使用するために保管することになる。

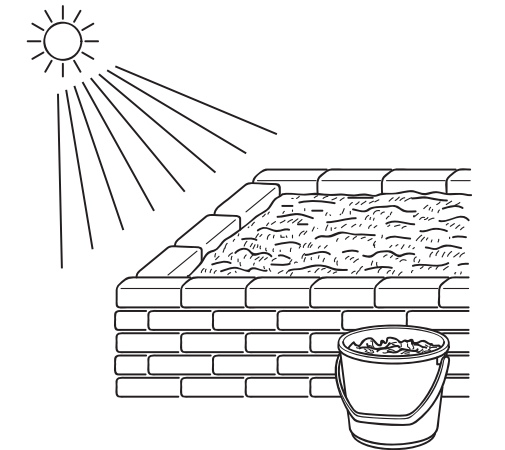
たねは、完全に乾燥させるためにしばらくは紙製の封筒や箱に入れ、その後は乾燥剤とともに密封容器などで保管するとよい。
また、一部は子どもに持ち帰らせ、また植物を育てたいという意欲を促したい。



花壇整備

土は、植物を育てることで、栄養バランスに偏りが生じ、細菌が繁殖するなどして劣化し、次に育てる植物が成長不良を起こしたり、根腐れを起こしやすくなってしまったりしてしまう原因となる。

そこで、栽培を終えたら、何度も土を掘り起こしながら、雑草や根などを取り除き、腐葉土などを混ぜて、栄養を与えておくとうい。

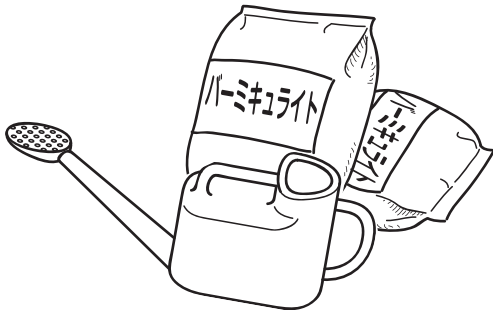


■ホウセンカが好む環境

ホウセンカは、水はけのよい土を好むが、乾燥に弱い。また、日当たりのよい場所を好む。

そこで、土には、水はけと水もちのバランスをよくするために、パーミキュライトを3割ほど混ぜておくとうい。

水切れすると弱ってしまうので、特に真夏などは、朝、昼、夕の3回水やりをするようにする。ただし、水の与えすぎは根腐れの原因となるので注意する。



■うどんこ病に注意

ホウセンカは、葉の表面にうどん粉をまき散らしたような「うどんこ病」になりやすい。

うどんこ病になると、光合成が阻害されたり、葉にある栄養が吸い取られてしまうため、育ちが悪くなり、花が咲かなくなってしまうこともある。

うどんこ病は比較的に気温が高いときに発生しやすい。うどんこ病にかかってしまったら、専用の殺菌剤を使用する。

